



心理的な時間

今年に入ってから記録的な大雪にもめげず、思ったより早く塾の前の桜が満開です。3年前の春、東日本大震災のあとも桜は見事に咲きました。あの時私は現地にボランティアに行くこともできず、せめて避難児童への無償授業という形で力になれないかと思いホームページで告知したのでした。その時に福島県南相馬市から避難してきたK君兄弟と半年間一緒に勉強しましたが、彼らから久しぶりに手紙とお菓子が届きました。「元気なおせんべい授業」という復興プロジェクトで製菓会社とともに「バタしょっと」というお菓子を作ったそうです。おいしくいただきました。しかしまだ自宅には住めず避難生活が続いているとのこと。これからもそれぞれの立場で根気強く支えあっていかなければなりませんね。

天災や人災もありますが、いろいろな格差など世の中には平等でないことがいっぱい。しかし時間だけは誰にも平等にあると思われれます。もちろん春期講習で説明した時差の計算で考えると、もし日本からハリウッドまで旅行し、そこで映画スターにスカウトされ、そこで一生を終えれば17時間の得をした人生になる訳ですが、これは客観的な時間の話。ところが、名著「ゾウの時間、ネズミの時間」という新書にもあるように生物のライフサイクルから見ると同じ24時間でも違った意味合いが生じてきます。また、よく年を取ると1年が短く感じるといいますが、これも説明可能な理由があるようです。心理的な時間というべきものの存在です。

今回の講習で終わりのチャイムが鳴った瞬間「もう終わり？学校の授業の45分よりずっと短く感じる！」と叫んだ新中3がいましたが、これも心理的な時間。反対に準備不足でテストに臨むと、残り時間はちゃんとあるはずなのに気ばかり焦って気づけば終了のチャイムが鳴っていたという経験はないですか。「時間がなくて宿題もできない」と言っている人も「授業中は退屈で早く時間が過ぎてほしい」と思っている人も結局はかなり心理的な時間に左右されているのです。さあ新年度は時間を有効に使う練習もスタート！